



発行
大阪市港区築港1-12-27
全日本港湾労働組合関西地方大阪支部
発行責任者 林 繁 行



三島川之江港を指定港に！

書記長 林 繁 行

全国港湾・港運同盟・四国港湾・ITF東京の四者は2月19日、2012年12月以来の2度目となる、愛媛県・三島川之江港の指定港化に向けた現地闘争を行いました。

前日の18日に、全国港湾傘下の、北海道から沖縄までの組合員140名、地元四国から40名、総勢180名が四国中央市に結集しました。

19日当日は、強風吹きすさぶ中、午前8時に金子地区ターミナルゲート前に全員が集合し、決起集会を開催しました。

集会は、全国港湾・糸谷委員長の力強いあいさつに始まり、ITF東京事務所の瀧所長、四国港湾の長尾議長がそれぞれ決意を述べた後、港運同盟による団結ガンパローで締めくくられました。

デモは三つの梯団で構成し、まず、金子地区コンテナヤードゲート前でシュプレヒコールを行い、ヤードに入ろうとする海コンドライバーに説得行動とビラ配布を行い、事実上コンテナヤード入口は封鎖されました。

三島運輸の倉庫前から

その後、デモに移りました。
まず、三島川之江港の運用協議

会の会長であり、反指定港化キャンペーンの中心人物である三島運輸・大西社長の会社である三島運輸保税倉庫前でシュプレヒコールを上げました。

デモ隊は続いて大王製紙、愛媛製紙、丸住製紙各社前で抗議のシュプレヒコールを行い、川之江会館まで整然とデモをしました。

川之江会館での集約集会において糸谷委員長は、15春闘の第一波として、三島川之江港の指定港化要求闘争に取り組んだ。3月末まで残り時間は残されていないが、指定港化されるまで必要な行動に取り組むとあいさつしました。

今回の行動は、金子地区コンテナヤードのゲート封鎖を含め、大きな圧力となり、指定港化に向け、一歩前進したと思っています。



現地では山城博治議長ら2名が不当拘束される

Stop! 辺野古新基地建設・大阪アクション

執行委員 陣内恒治

沖縄・辺野古キャンプシュワブ前で2月22日、「埋立反対県民集会」が開催されるのにあわせて関西でも、辺野古との共闘をめざして「大阪緊急アクション」が開催された。

この集会を準備している最中に、辺野古・キャンプシュワブ前で山城博治沖縄平和運動センター議長とTさんが不当逮捕されたとの知らせが入った。

シュワブ前には3000人！

山城さんはデモ隊に、基地境界を示すイエローラインの内側に入らないよう誘導している最中に米軍側のガードマンが彼を引き倒し、山城さんを助けようとした他の一人も倒され、刑特法違反として逮捕、拘留されたということだった。しかし、現場には大勢の市民やマスコミが居合わせ、一部始終は目撃されている。2人は境界線を越えてはいけなかったことをきちんと理解しているので自ら敷地内に侵入するはずもなく、明らかに不当逮捕である。基地内に引きずり込まれるのを警察は見ていたにもかかわらず、何もなかった。権力は、こんな汚い手口で、集会を成功させないように弾圧したのである。

それでも、現地集会には国会議員も結集し、予想以上の3000人もの人々が集まった。そして、名護署前でも「仲間を返せ」と抗議を続けたのである。

大阪でも緊急アクション！

大阪の集会でも、沖縄に連帯して怒りの声をあげ、「We shall overcome」を歌った。辺野古に行った人たちから報告が行われ、辺野古から携帯電話で中継する形で、服部良一さんから現地報告をして頂いた。

デモでは、アメリカ領事館前で抗議の声が一段と大きくなった。これを公安が取り囲み、一時騒然となったが、解散地点の西梅田公園まで貫徹した。主催者発表では参加者は250名だったが、デモの途中から参加した人たちもあり、300人は超えたと思われる。

不当な拘束だ！

現地での拘束について、米当局が法に則り拘束したので、名護署は身柄を渡されたとして引き続き拘留する。違法だと国会議員に指

地方検察庁に送致されたが、地検は勾留する理由がないとして、72時間後に釈放された。まさに反対運動に対する嫌がらせである。



工事では、前知事が承認した岩礁破碎許可によって、1個10～45トンもある巨大なコンクリートブロックが何個も沈められ、サンゴ破壊が広がっている。

翁長知事命令を無視?!

翁長知事はサンゴ破壊の状況を確認するため、沖縄防衛局に資料を提出するよう求めたが、防衛局は意図的に指示を無視するという対応をした。これは、許可条件に反するだけでなく、行政機関としてあるまじき悪質さである。

「辺野古移設ノー」の民意を踏みにじり、「環境の時代」にも逆行する作業をこれ以上続けさせてはならない。民意を無視して政策を強行することは民主主義の破壊である。日本政府及び米海兵隊の焦りは、市民を強権的に弾圧する暴挙に出ている。

この弾圧は、沖縄に対する差別そのもの、植民地としかみていないような米軍の行為、米軍に追随



摘されても、拘束の理由は米軍の判断だから警察は不明だという。これは明らかに不当逮捕だ。

名護警察署は日米地位協定に伴う刑事特別法違反の疑いで2人を逮捕した。2人は2月23日に那覇

する日本政府の行為は、県民の怒りをさらに増幅するだろう。まさしく沖縄だけの問題ではなく、弾圧は国民に向けられた。

近畿中部防衛局等へも質問

関西の連帯した運動として、基地建设を受注した大成建設関西支社に工事中止の要請をしました。

また、第5管区海上保安本部に

対して質問した、第11管区海上保安部による、カヌー等の進路強制変更の法的根拠、市民への身体拘束の法的根拠、身体拘束に刑事特別法が適用・運用される法的根拠等の回答を12日に受ける予定だ。しかし、現時点では直接、本庁政策広報評価室に問い合わせしてほしいと端から逃げ腰である。保安庁職員を第5管区から派遣している問題とあわせ追求していく。

また、大阪アクションは、2月19日に近畿中部防衛局へ第13次署名提出と質問提出をした。

その回答の受取りを、東京の防衛省への抗議行動と合わせ、3月17日に予定しています。

闘うことでしか民主主義は守られない。辺野古とつながろう！勝利の日まで！

西日本討論集会 in 松山

執行委員

川村和美

全労協15春闘西日本討論集会が2月28日～3月1日の両日、愛媛県松山市道後「にぎたつ会館」において開催され、大阪支部から山田副委員長、田村執行委員と私の3人で参加しました。

まず、全港湾四国地本・長尾伸夫委員長の開会あいさつ、つづいて全労協春闘方針が、全労協事務局長中岡基明さんから提案され、討論が始まりました。

各地域からの特別報告として、大阪教育合同労働組合書記長の井澤恵梨子さんから、橋下大阪市長との闘い、JAL 争議団の西岡ひとみさんから日航整理解雇反対の

闘いについての報告と決意表明が行われました。また、さまざまな地域、労働現場において、労働者の権利がないがしろにされている現状が報告されました。

争議報告では、全港湾四国地本丸久分会の奥村進也さん、全港湾四国地本直轄ユニオン分会の田村祥子さん、N TT関連労働組合の田植重雄さんからの勝利報告がなされ、支援の仲間を信じて、団結して闘えば、必ず勝利できることを全体で再確認し、1日目を終えました。

交流会では、全港湾四国地本直轄ユニオン分会にぎたつ会館フロントの山中加奈恵さんから歓迎のあいさつがあり、いきいきと仕事をされている姿がとても印象的でした。

2日目は、全港湾四国地本丸久分会闘争における過重労働についての意見書を書かれた労働科学研究所研究部長 兼 慢性疲労研究センター長の佐々木司先生から、

「交代勤務の疲労と睡眠」というテーマで講演が行われました。

長時間労働や深夜労働の危険性、とりわけ夜勤をする労働者は日勤労働者に比べて、男性では前立腺がん、女性では乳がんを発症するリスクが高まるため、休息が重要であることなどについて話され、このような研究結果があるにも関わらず政府による対策が取られて



いないこと、それは、少数である夜勤労働者の置かれている現状を理解していないところが問題だと提起されました。

集会のまとめとして、安倍政権と対峙し、労働法制改悪や非正規・外国人労働者の問題などに力を結集して闘うとしました。

最後に、京都総評・稲村守さんの団結ガンパローで散会しました。



JAL 争議団から

闘い、郵政ユニオンの家門和宏さんから労働契約法20条裁判の闘い、全港湾四国地本・長尾伸夫委員長から、三島川之江港の指定港化の

青年部 だより

もっと前に！もっと強く！

スミサク分会 横山貴安基

第18回全国青年対策会議が2月7日(土)～9日(月)の3日間、横浜の「波止場会館」にて開催され、



関西地本8名(うち大阪支部からは松下青年部長と私の2名)を含む総数84名が全国から集まりました。

松本中央執行委員長のあいさつの後、「港湾産別の運動」について、引き続き委員長より講義を受けました。内容は、産別運動が持つ“力”のお話で、特に、事前協議制度が柱である事を強調されました。

私の会社では、港湾における産別協定がほとんど締結されていないので、興味深く聞きました。そして、会社に、各種港湾産別協定締結を強く求めているかなければ、と改めて感じました。

2日目は「全港湾の歴史」について、元全港湾中央執行委員長の坂野哲也さんより講義を受けまし

た。かつての港湾荷役労働、労働者の置かれている状況などが、どのようなものだったのが、また、

その港において全港湾が果たしてきた役割などについて話されました。

現在、私たちは当たり前の様に組合活動していますが、先輩方が大変な闘いを経て、勝ち取ったものに守られているのだという事を教えられました。

分散会では活発な論議

その後、6班に分かれ分散会が行われ、「全港湾」「労働組合の重要性」「港湾労働の歴史」について議論しました。

特に「労働組合の重要性」については活発な意見が飛び交い、「会社と同等の立場で話ができる」「労働者が不当な圧迫から守られる」等の意見が出されました。

私は全港湾に加入した経緯を話し、それに対して他の仲間たちが

どう感じるかを聞いてみたかったので、今回の分散会はとても有意義でした。

3日目は、横浜港視察で、山下公園より「マリニャトル」に乗り、横浜港内のガントリークレーンや大型コンテナ船、舢舨(はしけ)荷役などを見学しました。近年、他港では荷役量が増加傾向にあるが、横浜港では減少傾向にあるという話を聞かされ、驚きました。

この3日間で、全港湾という労働組合は、全国の仲間が団結し、自分もそれに支えられているのだと感じました。

これからも、さらに横の繋がりを強くし、青年部としてもっと前に出て活躍しなければならない。そして個々がより気持ちを強く持



ち、これからの厳しい時代を全港湾が中心となり、立ち向かっていくこと、このことに少しでも力になりたいと思います。

大阪支部ホームページ開設！

大阪支部のホームページ開設しました。
アドレスは <http://www.zenkowan-osk.org/>



QRコードはこちら